群馬県立尾瀬高等学校　学校評価一覧表　（令和７年度版）

（別紙様式）

羅針盤			方策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①学校生活について、「満足」と感じている生徒が８０%以上である。	生徒自らが充実感や達成感を持って自己肯定感を高められるよう、授業や部活動、学校行事などを通じて生徒に主体的な活動を促し、その実践や成功に向けて全職員で指導及び支援にあたる。	A	A	A	①　「学校生活に対する満足度」が生徒91%・保護者95%で、昨年度の生徒８７%・保護者９４%と比較して上昇した。ただ、差は縮まったものの保護者に対して生徒が低い傾向にある。このため、授業改善、行事や部活動などのさらなる充実、生徒が安心して過ごせる生活環境の整備など、より良い学校作りに努めることでさらに高めていく必要がある。	・「学校生活」や「習熟度別授業」、「少人数指導」に対する満足度が昨年度よりも上がっていることは十分に評価できます。一方、「学校生活」に何らかの不満を持つ生徒も少なからずいるので、学校の魅力向上のためにも目を向け、改善できることから取り組んで行かれることを望みます。・「野ニスケ部」はとても斬新で面白く、今後の尾瀬高校のウリになっていくのではないかと思います。・KIZUKU!プロジェクトで地域との連携がさらに深まり良い方向であると感じます。引き続き地域行事への積極参加、総合的な探究の時間や課題研究の一層の充実をお願いします。・尾瀬高校の生徒は在籍する３年間で「個」の良さが輝きを増す生徒が多いと感じます。「個性」を重視して一人ひとりが活躍できるような学校づくりをお願いします。
		②「少人数授業」や「習熟度別指導」について、「満足」と感じている生徒が８０%以上である。	１年次の数学と英語を中心に少人数授業や習熟度別指導の授業、２・３年次ではコース別の選択科目において少人数授業を行う。少人数授業では個々の生徒に応じて、習熟度別指導の授業では生徒の理解度に応じて、きめ細やかな指導や「わかりやすい」授業の展開などを実践する。	A	A	A	②　「少人数授業」や「習熟度別授業」の満足度が生徒96%・保護者94%で、昨年度の生徒92%・保護者91%から上昇した。「少人数」や「習熟度別」の授業形態における良さを活用し、「育成したい資質・能力を明確にした授業」が展開できている結果と見られ、今後も生徒の主体性を育みながら満足度の向上につなげたい。	・概ね良好であると思います。・校外連携事業について、生徒の評価が上がっているのに対し、先生方の評価が著しく低下している点は憂慮すべき事案と思われます。方策の検討が必要かと思います。・総合的な探究の時間や課題研究などにおいて、魅力あるプログラムを外部の機関や講師と連携して準備・計画して実践しとありますが、教員がレールを敷きすぎているのではないか。以前は、全校生徒が学科・学年横断の２０～３０グループを作り、やりたいことを自由に出し合って、校外連携事業（年間１００講座以上）を計画していました。
		③ 学校行事などの活動を通じて、「人間関係の深まり」や「クラスの和の高まり」を感じている生徒が８０%以上である。	各行事において、グループ活動における目標や役割分担を明確に設定するなど、具体的な企画や立案を行う。また、生徒が主体的に取り組める運営に努め、活動を通じて生徒の責任感や協調性などを醸成する。	C	A	B	③　「行事を通じて人間関係が深まったり、クラスの和が高まった」と感じている生徒が93%、また「行事に積極的に取り組んでいる」と感じている保護者が93%、職員が75%であった。昨年度の生徒83%・保護者90%との比較では上回る結果で、特に生徒の上昇率が高く、尾瀬高祭などの企画や運営等が円滑に行えた結果と考えられる。ただし、職員結果との差が大きい状況があるため、今後もさらに指導や助力を継続し、生徒が主体的かつ積極的に行事を企画・運営できるように努める。	・個々の学習の進捗にきめ細かく対応されていることが数値として表れているものと考えます。小規模校の良さが伝わってくる結果です。令和７年度は新たな試みに果敢に取り組んだ年度であったと思います。プロトタイプ、ローンチ、アップデートの繰り返しでより良いものにしていくことが成功につながる秘訣だと思います。・「少人数授業」や「習熟度別授業」に対する生徒の満足度が96%、保護者の満足度が94%と極めて高い数値を示しており、一人ひとりに寄り添うきめ細やかな指導が貴校の最大の特色として定着・発展していくことを期待できます。
		④ 校外連携事業について、「いろいろなことを学ぶことができて有意義である」と感じている生徒が８０%以上である。	「総合的な探究の時間」や「課題研究」などにおいて、魅力あるプログラムを外部の機関や講師と連携して準備・計画して実践し、振り返りによるまとめを充実させることで達成感や自己肯定感を培う。	D	B	C	④　「総合的な探究の時間」や「課題研究」への取り組みを有意義と感じている生徒が89%で、昨年度の85%から上昇した。ただし、「生徒が主体的に取り組んでいる」と感じている職員は68%で、大きな差が生じてしまった。引き続き生徒の充実感や達成感を向上させていくために、地域との連携を軸にしながら地域の有識者やICT機材等を積極的に活用し、生徒の活動の幅を広げたい。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 授業について、「わかりやすい」と感じている生徒が８０%以上である。	授業改善期間や職員研修などを設定し、積極的に授業公開や研究授業を行う。また、指導と評価の一体化を意識した授業作りや教科間連携によるクロスカリキュラム授業の実践に努め、その振り返りやまとめを充実させるなどして、指導力の向上や生徒の実態に即した授業改善を図る。	A	A	A	⑤　「授業がわかりやすい」という生徒が99%で、昨年度の95%よりも増加した。保護者も92%で昨年度の83%から大幅に増加した。「指導と評価の一体化」を意識した授業作りを推進し、実践した結果と捉えられる。今後も授業アンケートの結果などを踏まえ、授業改善や指導力の向上に努める。	・「授業がわかりやすい」と答える生徒が99%いることは非常に素晴らしいことと感じます。相互の授業見学や授業の進め方などについて共有される時間があるといいようにも思います。・「自ら学ぶ」という点に関してもKIZUKUIプロジェクトなどの成果と感じます。引き続きの充実をお願いします。・概ね良好だと思います・検定や資格取得に挑戦した生徒の合格が、５０%以上である。については、評価項目である「生徒は確かな学力を身に付けていますか。」に対して適切な目標か、再検討が必要ではないでしょうか。検定等は、やる気のある生徒がチャレンジして受けていると考えられ、全生徒に対しての「確かな学力とは何か」を明確にして共有し、それを目指したうえで評価した方がよいと思います。・検定試験の合格率などが目標に届かなかった点は課題ですが、一方で、今年度は創立以来初となる慶應義塾大学合格者が誕生しました。これは、独自の探究活動や丁寧な指導が、難関大学にも通用する「確かな学力」として結実したことを証明する快挙です。この成功事例は、在校生全体の学習意欲を大きく引き上げるものと期待しています。・⑦の項目が生徒、先生方共に伸長していることは特筆すべきことであると思います。まとめにて考察されている通り、諸々の活動のひとつの大きな目的は自ら興味や疑問を持って学ぶことにあると考えますので、外部に示しても良い成果であると感じます。
		⑥ コースごとの授業や多様な選択科目について、「満足」と感じている生徒が８０%以上である。	個々の生徒の進路希望を踏まえ、２年次のコース選択を行わせるとともに、各コース内では多様な進路に対応した選択科目を設定し、生徒各自の進路希望に適した科目を選択させる。	A	A	A	⑥　「コースごとの授業や選択科目の授業についての満足度」が、生徒96%・保護者90%であった。昨年度は、生徒90%・保護者86%でどちらも増加しており、今後も生徒のニーズに対応した進路選択のための選択科目の精選や、カリキュラムマネジメントの充実をさらに推進していく。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 授業などを通じて、「自ら学び、考え、判断する」ことができるようになったと感じている生徒が７０%以上である。	普通科での「総合的な探究の時間」「課題研究」、自然環境科の「総合的な探究の時間」「理数探究」「環境専門科目」での取組などを通じて、達成したい目標を明確にし、「課題の発見から解決」や「主体的な学び」を念頭に置いた深い学びを実現する。	A	A	A	⑦　学習面で「自ら学び、考え、判断できるようになった」と考えている生徒が87%、保護者が83%で、どちらも増加した。昨年度は生徒79%・保護者81%で、特に生徒の上昇率が高い傾向があるが、「KIZUKUIプロジェクト」の取組に係る「総合的な探究の時間」や、「課題研究」・「理数探究」・「環境専門科目」などで生徒の探究心や創造性等が引き出せている結果と見られ、さらに主体性を育む指導に努めていく。	
		⑧ 検定や資格取得に挑戦した生徒の合格率が、５０%以上である。	漢字・英語・商業などの検定や資格取得への積極的な挑戦を促し、これらを活かした進路選択などを各教科や学年で推進する。また、組織的に放課後補習を行うなど、検定合格や資格取得に向けての指導・支援に努める。	D		D	⑧　受検者総数は81名、合格者は27名、合格率は33%であった。昨年度との比較では、受検者総数75名・合格者37名・合格率49%で、受検者は増加したが合格者及び合格率は低下してしまい、目標にには至らなかった。これまで以上に学科や教科、学年等が連携しながら組織的に取り組み、個別指導や補習の充実などを図りながら受検者数・合格者数の増加に努める。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨生徒の情報把握及び職員間での情報共有について、生徒と担任の個別面談を年に３回以上、職員間の情報交換を月に３回以上行う。	「生活実態アンケート」及び担任や部顧問などによる個別面談を定期的に実施する。また、生徒の様子を職員間で共有できるファイルを作成するなどして、効率的かつ効果的な生徒の状況把握と個別対応を行う。さらに、スクールカウンセラー、保護者などとの連携を積極的に行い、情報共有を密に図って組織的・協働的な指導に努める。	A		A	⑨　定期的な面談は、４月中旬・８月下旬～９月上旬・１２月中旬に「面談週間」を設定して対応した。また運営委員会・職員会議・各学年会議などで定期的な情報交換を行っている。さらに、授業時の様子などについても職員間での日常的な情報共有を図り、生徒理解に努める。	・尾瀬高生は以前から「挨拶」がしっかりできる生徒が多いと言われています。社会に出てからもこのことについてはとても重要です。・多感な時期の若者の変化は著しいことと思いますので、定期的に相談・面談ができる時間が設定されていることは理想的であると思います。面談内容について、共有がなされると、先生同士のコミュニケーションが取れていることも組織力の強さにつながっていると感じます。・尾瀬高校は風通しの良い校風が素晴らしい高校だと思っています。面談やアンケートだけではなく、日常の学校生活の中で生徒間の微妙な関係の変化も感じ取られていることと思います。全体としては高水準な評価ですが、あまり当てはまらないや当てはまらないという返答をしている生徒と保護者がおり、特定の生徒とその保護者ではないかと感じます。いじめに関しては、全体的にいい数字であれば問題はないというものでもないと思いますので、生徒ひとりひとりと向き合うことも大切なことであると思います。重大な事案に発展する前に追究・対応していくことも必要であるように感じました。・ちょっとした気のゆるみから、なし崩しに生活が乱れていくことは往々にして起こるものかと思いますので、データで把握し分析されていることは有用であると思います。・ボロシャツの導入など時代変化に対応したことへの評価が高い点は、服装に留まらず、学校の姿勢そのものに対する評価にもつながることと思います。また、いかに多様な世の中になろうとも人々の間に存在する規範・マナーへの認識は必要不可欠なものであると考えます。・学校のような公共施設が共用の場であることを認識するためにも、みなで清掃にしっかりと取り組んでいるという認識を持っていることは大切なことだと思いました。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩「いじめの防止や早期発見に向けた取組」について、「学校が積極的に行っている」と感じている生徒が８０%以上である。	本校の「いじめ防止基本方針」「いじめ防止プログラム」「いじめ対応マニュアル」などを本校のWebページに掲載し、職員や生徒、保護者への周知徹底を図る。また、「生活実態アンケート」や「いじめ防止対策委員会」などを定期的に実施し、生徒や保護者からの情報を把握・共有して早期発見及び未然防止に努める。	A	B	B	⑩　本校が「いじめの防止や早期発見に向けた取り組みとして、面談やアンケートなどを積極的に行っている」と思う生徒が88%、保護者が85%であった。昨年度の生徒84%・保護者76%からは上昇しており、面談や生活アンケートなどでの状況把握が認知・評価されてきた結果と見られる。未然防止や早期発見に向けて、今後もさらに生徒指導部や担任・学年を軸に全職員で組織的な対応を図り、いじめ防止対策委員会やいじめ防止対策研修、学校いじめ防止基本方針の周知などにも重点的に取り組む。	
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪ 一日あたりの学校全体としての欠席者が５人以下、遅刻者が学校３人以下である。	生徒が活躍できる環境や機会を与えられるよう、学校での生徒の居場所作りを考え、実践する。また、欠席や遅刻が多い生徒に対しては、保護者やスクールカウンセラーとも連携しながら個別指導や教育相談を充実し、基本的な生活習慣の確立などを踏まえて改善に努める。	A		A	⑪　１日の平均人数は、欠席者が１・２学期とも3.3人、遅刻者が１学期1.8人・２学期1.2人で、１・２学期の平均は欠席者3.3人、遅刻者1.5人となり、目標値を上回る結果となった。昨年度平均との比較では、遅刻者は1.5人で同数、欠席者は2.8人で若干増加している。生徒の安定した学校生活のために、今後も生徒観察や状況把握を図り、長欠者や長欠傾向・欠席・遅刻の目立つ生徒への組織的な対応に努める。	
		⑫ あいさつや身だしなみなど、基本的なマナーに気を付けてしっかりしている生徒が９０%以上である。	服装頭髪指導や登校指導などを定期的に実施し、日頃からの声がけなどを行って挨拶や交通マナー、規範意識などの指導を実践する。このことにより、社会性を持って主体的に判断し、行動できる生徒を育てる。	B	B	B	⑫　「定められた頭髪・服装をしている」「身だしなみやあいさつなど基本的なマナーを気を付けている」という生徒がいずれも99%、保護者が96%と94%、職員が95%と80%で、良好な結果ではあるが、生徒・保護者と職員との認識に差が認められる。「基本的なマナー」に関して職員間での共通認識を図り、生徒指導に反映させる。また、昨年度導入した夏服のボロシャツについて、着用した生徒は59%で、昨年度の41%から増加した。また、これを「快適そう」と感じる保護者は98%、職員は100%であった。	
		⑬ 清掃活動をしっかり行っている生徒が、９０%以上である。	日常の校内における清掃活動に加え、全校生徒による一斉清掃などを定期的に行い、環境の美化に努めながら意識の向上を図るとともに、奉仕の心を育成する。	A	B	B	⑬　「清掃をしっかり行っている」という生徒が97%、職員が100%で良好な結果であった。上記⑫の結果と併せて、生徒が規律ある学校生活を送り、全職員による生徒指導全般での対応や協力ができている結果と見られ、今後も継続的な指導を図る。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭ キャリア教育に積極的に取り組んでいる生徒が、８０%以上である。	個人手帳やキャリアパスポートなどを効率的かつ効果的に活用しながら、自己の行動や考えを記録してまとめさせるとともに、振り返りの機会を設定するなどして計画的かつ組織的なキャリア教育を推進する。	B	A	B	⑭　「キャリア教育を通じて自分の生き方を考えるようになった」と感じる生徒が91%、保護者が93%、職員が80%で、昨年度の生徒92%・保護者82%・職員89%で、保護者の上昇に対して職員が低下している。また、生徒・保護者と職員との間で差が生じており、「KIZUKUIインターン」などキャリア教育のさらなる充実を図り、全体的な意識の向上に努める。	・慶応義塾大学SFCへの合格は快挙でした。進路の実現に対しては学校として生徒に対して十分に指導をしていただけているものと感じます。・地域における「アルバイト」についてもキャリア教育と地域経済の活性化に大きく寄与するものと考えますので、積極的に認めていただきたいと考えます。・概ね良好だと思います。「進路について真剣に考え」の評価を、行事への積極的参加で評価するのもよいですが、生徒が保護者へ説明する機会、話し合う機会、なども評価に加えるという方法もあると思います。・⑭について、生徒、保護者の評価が高いのに比べ、先生方の評価が低下したことの原因究明が定性的になされてもいい気もします。こちらの項目にも「自分の生き方」という自主性・主体性に通ずるワードが登場してきますので、先生方の問題意識の高さが感じられます。・先行きが不透明な時代であり、かつ選択肢が多様な時代のため、生徒指導が難しいことと思います。・「KIZUKUIインターン」などのキャリア教育によって、生徒が自分の生き方を考える機会が充実しており、アンケートでも生徒の91%が肯定的に捉えています。一方で、進路行事への保護者参加率などが低下傾向にあるため、家庭と連携した計画的な指導をさらに工夫していただきたいです。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮ 進路行事に積極的に取り組んでいる生徒が、８０%以上である。	進路指導部と学年や担任が連携して進路行事を企画し、生徒が主体的に自分の進路を考えられる機会となるように計画性を持たせ、進路行事の効果的な実施を図って生徒の意識向上に努める。	A	B	A	⑮　「進路行事に積極的に取り組んだ」と思う生徒が90%、保護者が88%で、昨年度の生徒・保護者ともに94%と比較すると、どちらも低下してしまった。学年単位で上級学校・企業見学や進路ガイダンスを実施しているが、生徒を通じての保護者への認知が弱まった可能性が考えられ、進路ガイダンスへの保護者参加など、さらなる意識向上に向けて発展的な検討を図りたい。	
		⑯ 進路実現に向けて進路先調べや進学補習などに積極的に取り組んでいる生徒が、８０%以上である。	個々の生徒の希望に添った進路実現ができるよう、個別の指導を基本としながら進路指導を進める。また、放課後や長期休業中の補習について効果的な実施を図り、さらに「進路だより」を発行するなどして、生徒の取組の向上や情報発信に努める。	B	B	B	⑯　「上級学校調べや自分に適した職業を考えるなど、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる」と思う生徒が87%、保護者が73%で、昨年度の生徒91%・保護者80%との比較ではどちらも低下してしまった。また、生徒と保護者の間に差が生じている状況も続いており、特に保護者との連携を密にしながら情報共有を図り、生徒の希望に沿った進路指導を組織的かつ計画的に実施する。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰ 「尾瀬高Webページ」や「尾瀬高通信」などの内容が「充実している」と感じている保護者が、８０%以上である。	本校の教育活動の様子や部活動の実績などをトピックとして随時報告するなどしてWebページの定期的な更新や魅力的な公開を図る。また「尾瀬高通信」は利根町や片品村の小中学校生全員、学校評議員などにも配付し、近隣の地域社会に対して本校の教育活動を積極的に発信し、本校への理解度を高める。	A	A	A	⑰　「本校のＷｅｂページの内容について充実している」という保護者は、91%であった。「ホームページ」は４月から12月までに160回の情報更新を行い、情報を発信できた。しかし、「尾瀬高通信」は、昨年度発行してから本年度は発行できていない。Ｗｅｂページ引き続きの情報更新、「尾瀬高通信」は続号の発行に努め、効果的かつ魅力的な情報発信を推進していく。	・WEBページはこまめに情報が発信されていて良いと思いますが、地域住民に対しての情報発信がまだまだ不足していると感じます。興味を持っていない方への広報はなかなか難しい部分ではありますが、引き続き生徒の活躍や様々な成果について積極的に広報をお願いします。・Webページの更新頻度が高く、保護者からの評価も高いですが、今年度「尾瀬高通信」の発行がなかった点は惜しまれます。地域にはWebを見ない方も多いため、紙媒体による広報も継続し、より幅広い住民への周知に努めていただきたいです。・ホームページでの情報発信の多さに学校の意欲を感じます。しかしながら、発信の多さが必ずしもよいとは限りません。情報にあふれている現在は、情報に埋もれてしまっている、多すぎて受け止めきれない人も少なくありません。保護者へのメール・アプリ通知は、どの学校でも多くなっていると思いますので、同様の課題があると思います。私は、地域で情報発信（公式LINEの運営）を行っていますが、月に３～４回程度がよいとされています。また、情報を自ら取りに行く（ホームページなど）習慣も大切にしたいですので、見やすい（シンプルで整理された）ものになるとよいと思います。アーカイブというか、過去の情報が内容で分類されて、さらに対象別（保護者対象の入口があるとよい）があるといいです。・情報発信について、安定的に更新されており、関係者の満足度は高いことと思います。Webサイトは、気軽に日々の生活の様子を知ることができ、保護者との重要なコミュニケーションツールでもあると思いますので、引き続き、更新にご尽力ください。私も楽しみにしています。・尾瀬かたしな未来構想委員会との連携は積極的に進めていくべきと考えます。・スマート連絡帳については、新たなツールの導入時のため、不慣れな部分もあり開封率が下がった可能性もあるように思いました。周知・伝達を行うことで改善されるかと思います。こちらもWebサイトと同様に保護者の皆さんとの重要なコミュニケーションツールになると思います。・地域の有識者や外部指導者との連携数が延べ300名を超え、地域に開かれた学校づくりが着実に進んでいることを高く評価いたします。
		⑱「スマート連絡帳」などによる学校からの連絡や情報を確認している保護者が、１００%である。	一斉送信のシステム利用に関して、各クラスや学校行事などを通じて呼びかけ、保護者の理解を高める。また、確認率の向上を図るために、「漏れなく、正しく、迅速に」を心がけて緊急時や必要な情報を配信する。		D	D	⑱　「スマート連絡帳」について、開封を確認したメールの既読率は71%で、昨年度の「ＧＳＮメール」の78%からも減少し、目標値を大幅に下回ってしまった。「書面通知やGSNメールなど、学校からの連絡はわかりやすい」という保護者は96%で、昨年度の89%から大幅に上昇したが、「スマート連絡帳」については未開封・未読の29%への働きかけが必要であり、クラスや学校行事などを通じてこまめに保護者に周知・伝達し、改善を図る。	
	10 家庭・地域社会との連携に努めていますか。	⑲ 地域の有識者や外部指導者との連携における協力者が、延べ３００人以上である。	普通科の「総合的な探究の時間」や「課題研究」、自然環境科の「総合的な探究の時間」「理数探究」「環境専門科目」、部活動などの取組において、地域の有識者や外部指導者との連携を積極的に行い、各活動内容の充実を図る。	A		A	⑲　協力者である地域の有識者や外部指導者の延べ人数は323人で、昨年度の256人とも比較して目標値を上回った。コミュニティ・スクールに係る学校運営協議会も含めて、多数の有識者・外部指導者と連携を図れた結果であり、今後も講座や行事、部活動などでの連携を図り、さらには大学・企業との事業連携なども推進していく。	
		⑳ 地域と連携協力して活動した生徒が、延べ５００人以上である。	地域ボランティアや理科部など部活動の取組、普通科の「総合的な探究の時間」や「課題研究」、自然環境科の「総合的な探究の時間」「理数探究」「環境専門科目」などの学習活動において、近隣地域との密な連携を図りながら生徒の積極的な活動の指導や支援を行う。	A		A	⑳　各行事や催しへの外部参加者数は1674人、また本校生徒の参加者数は584人で、こちらも目標値を上回った。なお、外部参加者の総数については、不明のものもあるため、実数はさらにこれを上回るものである。また、「尾瀬地域中高一貫教育推進事業」における「コーディネーショントレーニング講習会」の実施や「KIZUKU!プロジェクト」に関する取組など、活動の幅も広がっており、引き続き、地域や外部との連携を検討・調整しながら、さらに推進していきたい。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	11 ＩＣＴを活用した指導を行っていますか。	㉑ コンピュータ教室もしくは一人一台端末を１日に１回以上利用する生徒が、１００%である。	学校全体としてICTを活用した指導の実施や拡充が行えるように、職員間での支援体制の構築や職員研修の実施などに努め、職員のスキルアップを図る。また、学習面での「Classroom」や「スタディサプリ」などの活用を通じて生徒の利用頻度を向上させ、ICT活用指導を充実させる。		C	C	㉑　「本校のコンピュータ教室のパソコンや１人１台端末を１日に１回以上利用している」という生徒が84%で、昨年度の82%からは僅かに上回ったが、目標値は大きく下回った。今後も、授業におけるICTの活用や課題の配信を積極的に行うなど、効率的かつ効果的な活用について検討し、実践を図る。	・パソコンを使用しない日があっても決して悪いことではないと感じます。必要に応じて活用していけば良いと思います。・TUMO GUNMAでの学びが生徒にとってとても有意義出会ったと伺い、引き続き進めて頂きたいと感じます。・他校ではweb検索能力が低いという指摘がよく聞かれます。教科書や資料集等の説明だけでなく、web検索やAIの活用（必ず複数使用）で、概念的知識の獲得や、批判的思考力も高まると思います。また、教室のプロジェクターとスクリーンが常設（すぐに使える状態）されて、先生も、生徒も、簡単に接続して、活用できるとよいと思います。 少人数なので、教室にプロジェクターとモニター２つを置いたり、プロジェクターを複数台おいて、グループでの話合いや協働的な活動で、活用できるとよいと思います。・送り手受け手双方にメリットのあるDXが実践された数値であると思います。先生方の負担や働き方改革も関連してくる項目かと思いますので、引き続き推進されると良いのではないかと思います。・生徒の端末利用率が目標の100%に対し84%にとどまっている点は今後の課題です。
	12 ＩＣＴを活用した業務改善を行っていますか。	㉒ ICTを活用したオンラインによる通知やアンケートについて「便利だ」と感じている生徒や保護者が、８０%以上である。	資料の電子化、まだそれに伴うペーパーレスの実践、フォームなどを用いたアンケートの集計事務の効率化などを意識して業務改善を図り、生徒や保護者のオンライン化への理解も深めながらICTの積極的な活用に努める。		A	A	㉒　「オンラインによる通知やアンケートを便利と感じている」という生徒が96%、保護者が98%で、昨年度の生徒96%・保護者93%と比較しても良好な結果であった。特にアンケートでは、フォームを活用することで回答側だけでなく集約側の効率化も図れている。今後も１人１台端末の活用と連動させて、さらに利便性を図れるよう効率的かつ効果的な活用を推進する。	